

# カリキュラムマップ（看護：教職関係）

教職・養護関係(看護担当)カリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
教育相談(中高・養・栄)	児童・生徒の心の教育に関わる教師という立場で、学生一人ひとりの子供に対する思いを明らかにしながら展開していく。今日の子ども・保護者・教師を取り巻く環境を考察しながら、臨床心理学・教育心理学の立場から問題を抱えた児童・生徒にどのように寄り添うかを、教育相談全般についての知識と基礎能力を育みつつ学ぶ。	教師という立場で、学校場面において、児童・生徒や保護者の心に寄り添うことができるようになることを目標とする。	2	3	前期	3	ロールプレイ、グループワークなど	◎	○	◎	○
養護実習I	養護実習事前事後指導の目的・意義の理解を深め、教育実習に必要な技術の確認を行う。事後指導としては、養護実習において学んだ教育体験を実習生相互に共有し、養護教諭としての実践能力の向上をはかる。	1 養護実習の目的・意義が理解できる 2 養護実習の内容・方法について理解し、実習に必要な技術を習得することができる 3 実習後は学生相互の学びを共有化し、実践能力の向上をはかることができる	1	4	通年	4	グループワーク・ 討論・模擬授業	◎	◎	◎	◎
養護実習Ⅱ	大学で学んだ理論について教育実習校の体験によって学ぶことを目的とする。大学で学んだことを試みて日常の教育活動を記録化し、内容分析して課題を整理する。そして、大学での学びと体験した事実から養護教諭像を描くことができる。	1 学校、教育を行う場について説明ができる 2 学校における保健室及び養護教諭の役割を説明ができる 3 子どもとの直接的係わりを理論的に説明ができる 4 養護教諭の日常活動を体験し、自己の研修課題を導くことができる 5 自ら求める養護教諭像を描くことができる	4	4	通年	4	体験的学習(教育実習)	◎	◎	◎	◎
教職実践演習(養護教諭)	養護教諭養成課程の専門科目や教職課程科目及び養護実習での様々な活動の統合・深化を図る。それらを自分の教員としての最小限必要な資質能力として更に高めることを目指す学びとする。 また、本学の養成目標とする教員像や到達目標等に照らして「学びの軌跡の集大成」として自ら位置付け統合、確認できる。	1 教育の使命感や責任感、教育的愛情等に関することを自覚し、説明することができる。 2 社会性や対人関係能力に関する力について認識でき、説明することができる。 3 幼児児童生徒理解や保健室経営等保健管理に関する力について認識でき、説明することができる。 4 保健指導・教科(保健)等の健康教育力について、説明することができる。	2	4	後期	4	プレゼンテーション・グループ討論 (ケースメソッド)	◎	◎	◎	◎